

## 小郡市こどもの権利条例（案）

「みんなが毎日楽しく平和に暮らせるといい」

「いじめや悪口、暴力、仲間はずれがなくなしてほしい」

「自分のことを勝手に決めないでほしい」

「こどもの意見や考えを否定せずに聴いてほしい」

これは、小郡市の子どもたちが「おとなに伝えたいこと」として話してくれた声です。

すべてのこどもは、ひとり一人がかけがえのない存在であり、生まれた時から一人の人間

として幸せに生きる権利を持っています。すべてのこどもは、命が守られ、安心して育つ

権利があり、まわりの人からの愛情を受け、遊び、休み、学び、自分らしく暮らすことが

できます。すべてのこどもは、自らの意志で様々な活動に参加することができ、自分のこ

とは自分で選択することができます。

しかし、心とからだの成長の途中であるこどもは守られる存在でもあり、まわりのおと

なからの支えが必要になる場合があります。そのためおとなは、こども一人ひとりの声に耳

をかたむけ、こどもにとって最もよいことは何かを考え、行動していかなければなりませ

ん。

小郡市は、全ての人がこどもの権利を守り、こども一人ひとりが大切にされる社会づくり

を目指していくために、この条例を定めます。

### （目的）

第1条 この条例は、日本国憲法および児童の権利に関する条約の考えをもとに、こど

もの<sup>けんり</sup>権利を大切に<sup>たいせつ</sup>守って<sup>まも</sup>いくための<sup>きほん</sup>基本となる<sup>かんが</sup>考<sup>え</sup>えを<sup>さだ</sup>定め、<sup>おごおりし</sup>みんなで<sup>おごおりし</sup>小郡市の<sup>こども</sup>こどもの<sup>すこ</sup>健やかな<sup>そだ</sup>育ちを<sup>ささ</sup>支えて<sup>もくてき</sup>いくことを<sup>もくてき</sup>目的とします。

(<sup>ことば</sup>言葉の<sup>い み</sup>意味)

第2条 この<sup>じょうれい</sup>条例で<sup>つか</sup>使う<sup>ことば</sup>言葉の<sup>い み</sup>意味は、それぞれ<sup>つぎ</sup>次のとおりです。

- (1) <sup>しな</sup>こどもとは、<sup>す</sup>市内に住んでいる<sup>ひと</sup>人、<sup>しな</sup>市内で<sup>まな</sup>学んでいる<sup>ひと</sup>人、<sup>しな</sup>市内で<sup>はたら</sup>働いている<sup>ひと</sup>人、<sup>しな</sup>市内で<sup>かつどう</sup>活動している<sup>ひと</sup>人で<sup>ひと</sup>心と<sup>ところ</sup>からだの<sup>せいちょう</sup>成長の<sup>とちゅう</sup>途中にある<sup>ひと</sup>人をいいます。また、これら<sup>ひと</sup>の人と同じく、<sup>おな</sup>権利を<sup>みと</sup>認めることが<sup>ひと</sup>ふさわしい<sup>ふく</sup>人も含みます。
- (2) <sup>ほごしや</sup>保護者とは、こどもの<sup>おや</sup>親や<sup>おや</sup>親の<sup>か</sup>代わりにそのこどもを<sup>そだ</sup>育てる<sup>ひと</sup>人をいいます。
- (3) <sup>し みんとう</sup>市民等とは、<sup>しな</sup>市内に住んでいた<sup>す</sup>たり、<sup>しな</sup>市内で<sup>まな</sup>学んでいた<sup>しな</sup>たり、<sup>しな</sup>市内で<sup>はたら</sup>働いていた<sup>しな</sup>たり、<sup>しな</sup>市内で<sup>かつどう</sup>活動していた<sup>ひごろ</sup>たり、<sup>そだ</sup>日頃からこどもの<sup>かか</sup>育ちに関わっていた<sup>ひと</sup>たりするすべての<sup>ひと</sup>人や<sup>だんたい</sup>団体をいいます。

(<sup>きほん</sup>基本となる<sup>かんが</sup>考<sup>かた</sup>え方)

第3条 こどもは、<sup>う</sup>生まれた<sup>とき</sup>時から<sup>ひとり</sup>一人の<sup>にんげん</sup>人間として<sup>けんり</sup>権利を<sup>も</sup>持っており、<sup>せいかつ</sup>生活のあらゆる<sup>ばめん</sup>場面で、その<sup>けんり</sup>権利が<sup>たいせつ</sup>大切に<sup>まも</sup>守られます。

- 2 こどもには、<sup>しゃかいてきかんきよう</sup>社会的<sup>せいべつ</sup>環境、<sup>こくせき</sup>性別、<sup>しゅうきよう</sup>国籍、<sup>せい</sup>宗教、<sup>かた</sup>性のあり方、<sup>しょう</sup>障がいや<sup>びようき</sup>病気のあるなしなどにより<sup>さべつ</sup>差別されない<sup>けんり</sup>権利があります。
- 3 こどもは、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>けんり</sup>権利が<sup>たいせつ</sup>大切にされるのと同じように、<sup>おな</sup>自分以外<sup>じぶんいがい</sup>の<sup>ひと</sup>人の<sup>けんり</sup>権利も<sup>たいせつ</sup>大切にします。
- 4 おとなは、こどもが<sup>すこ</sup>健やかに<sup>そだ</sup>育つために、こどもの<sup>こえ</sup>声に<sup>みみ</sup>耳をかたむけ、こどもにとって

もっと  
最もよいことを第一に<sup>だいいち</sup> <sup>かんが</sup>考え、<sup>こうどう</sup>行動します。

<sup>あんしん</sup> <sup>い</sup> <sup>けんり</sup>  
(安心して生きる権利)

第4条 <sup>だいいち</sup> <sup>じょう</sup> <sup>つぎ</sup> <sup>あんしん</sup> <sup>い</sup> <sup>けんり</sup>  
こどもには、次のとおり、安心して生きる権利があります。

- (1) <sup>いのち</sup> <sup>たいせつ</sup> <sup>あいじょう</sup> <sup>たいせつ</sup> <sup>そだ</sup>  
命が大切にされ、愛情をもって大切に育てられること。
- (2) <sup>けんこう</sup> <sup>せいかつ</sup> <sup>てきせつ</sup> <sup>いりよう</sup> <sup>う</sup>  
健康な生活ができ、適切な医療が受けられること。
- (3) <sup>ぼうげん</sup> <sup>ぼうりよく</sup> <sup>ぎゃくたい</sup> <sup>たいばつ</sup> <sup>なかま</sup> <sup>う</sup>  
暴言、暴力、虐待、体罰、いじめ、仲間はずれを受けないこと。

<sup>まも</sup> <sup>けんり</sup>  
(守られる権利)

第5条 <sup>だいいち</sup> <sup>じょう</sup> <sup>つぎ</sup> <sup>まも</sup> <sup>けんり</sup>  
こどもには、次のとおり、守られる権利があります。

- (1) <sup>すこ</sup> <sup>そだ</sup> <sup>がい</sup> <sup>まも</sup>  
健やかな育ちを害するものから守られること。
- (2) <sup>ぷらいバシー</sup> <sup>まも</sup> <sup>めいよ</sup> <sup>きず</sup>  
プライバシーが守られ、名誉が傷つけられないこと。
- (3) <sup>ひと</sup> <sup>そうだん</sup> <sup>ひつよう</sup> <sup>しえん</sup> <sup>う</sup>  
まわりの人に相談ができ、必要な支援が受けられること。

<sup>じぶん</sup> <sup>そだ</sup> <sup>けんり</sup>  
(自分らしく育つ権利)

第6条 <sup>だいいち</sup> <sup>じょう</sup> <sup>つぎ</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>そだ</sup> <sup>けんり</sup>  
こどもには、次のとおり、自分らしく育つ権利があります。

- (1) <sup>あそ</sup> <sup>やす</sup> <sup>まな</sup> <sup>ひつよう</sup> <sup>かんきょう</sup> <sup>ととの</sup>  
遊び、休み、学ぶことができること。そのために必要な環境が整えられること。
- (2) <sup>しぜん</sup> <sup>ぶんか</sup> <sup>げいじゆつ</sup> <sup>ふ</sup> <sup>ゆた</sup> <sup>けいけん</sup>  
自然、文化、芸術、スポーツなどに触れて豊かな経験ができること。
- (3) <sup>じぶん</sup> <sup>みと</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>かのうせい</sup> <sup>たいせつ</sup>  
自分らしさが認められ、自分の可能性が大切にされること。
- (4) <sup>じぶん</sup> <sup>かん</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>せんたく</sup>  
自分に関することは、自分で選択できること。

<sup>いけん</sup> <sup>あらわ</sup> <sup>さんか</sup> <sup>けんり</sup>  
(意見を表し、参加する権利)

第7条 <sup>だいいち</sup> <sup>じょう</sup> <sup>つぎ</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>いけん</sup> <sup>あらわ</sup> <sup>さまざま</sup> <sup>かつどう</sup> <sup>さんか</sup> <sup>けんり</sup>  
こどもには、次のとおり、自分の意見を表したり、様々な活動に参加する権利が

あります。

- (1) 自分の<sup>じぶん</sup>思いや<sup>おも</sup>考<sup>かんが</sup>えなどを自分らしく<sup>じぶん</sup>表<sup>ひょうげん</sup>現し、人<sup>ひと</sup>に<sup>つた</sup>伝えること。
- (2) 自分の<sup>じぶん</sup>思いや<sup>おも</sup>考<sup>かんが</sup>えなどを表<sup>あらわ</sup>すために必要<sup>ひつよう</sup>な情<sup>じょう</sup>報<sup>ほう</sup>を得<sup>え</sup>ること。
- (3) 自分の<sup>じぶん</sup>思いや<sup>おも</sup>考<sup>かんが</sup>えなどが大切<sup>たいせつ</sup>にされ、人<sup>ひと</sup>に<sup>う</sup>受け止<sup>と</sup>めてもら<sup>ら</sup>うこと。
- (4) 自分の<sup>じぶん</sup>意<sup>い</sup>思<sup>し</sup>でさまざ<sup>かつどう</sup>まな活<sup>さんか</sup>動<sup>か</sup>に参加<sup>さんか</sup>すること。

#### (市の<sup>し</sup>責<sup>せき</sup>務<sup>む</sup>)

第8条 市は、こどもの<sup>けんり</sup>権<sup>たいせつ</sup>利<sup>まも</sup>が大切<sup>きほんほう</sup>に守<sup>れいわ</sup>られるために、こども基本<sup>ねんほうりつだい</sup>法<sup>7</sup>（令和4年法律第7号）第10条第2項にもとづき小郡市こども<sup>けいかく</sup>計<sup>さだ</sup>画<sup>とりくみ</sup>に定<sup>おこな</sup>める取<sup>おこな</sup>組<sup>おこな</sup>を行<sup>おこな</sup>います。

2 市は、こども、保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>者<sup>しゃ</sup>、市<sup>しみんとう</sup>民<sup>い</sup>等<sup>けん</sup>の意<sup>き</sup>見<sup>き</sup>を聴<sup>ちから</sup>いて、力<sup>あ</sup>を合<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>せてこどもの<sup>けんり</sup>権<sup>けんり</sup>利<sup>まも</sup>が守<sup>まも</sup>られるための<sup>たいせい</sup>体<sup>おこな</sup>制<sup>おこな</sup>づ<sup>おこな</sup>くりを行<sup>おこな</sup>います。

3 市は、こどもの<sup>けんり</sup>権<sup>けんり</sup>利<sup>けんり</sup>について、こども、保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>者<sup>しゃ</sup>、市<sup>しみんとう</sup>民<sup>い</sup>等<sup>けん</sup>に理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>してもら<sup>おこな</sup>うための<sup>いしき</sup>意<sup>いしき</sup>識<sup>いしき</sup>づ<sup>いしき</sup>くりを行<sup>おこな</sup>います。

4 市は、こどもがさまざ<sup>かつどう</sup>まな活<sup>さんか</sup>動<sup>さんか</sup>に参加<sup>さんか</sup>したり、こどもの<sup>おも</sup>思<sup>い</sup>や<sup>いけん</sup>意<sup>き</sup>見<sup>き</sup>を聴<sup>き</sup>くことができる<sup>き</sup>機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>づ<sup>き</sup>くりにつ<sup>つと</sup>努<sup>つと</sup>め<sup>つと</sup>ます。

5 市は、地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>社<sup>しゃ</sup>会<sup>かい</sup>全<sup>ぜん</sup>体<sup>たい</sup>でこどもや子<sup>こ</sup>育<sup>そだ</sup>て家<sup>か</sup>庭<sup>てい</sup>の孤<sup>こ</sup>立<sup>りつか</sup>化<sup>ばうし</sup>を防<sup>ちいき</sup>止<sup>つと</sup>する地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>づ<sup>つと</sup>くりにつ<sup>つと</sup>努<sup>つと</sup>め<sup>つと</sup>ます。

#### (保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>者<sup>しゃ</sup>の<sup>やくわり</sup>役<sup>やくわり</sup>割<sup>割</sup>)

第9条 保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>者<sup>しゃ</sup>は、こどもにとって最<sup>も</sup>も良<sup>よ</sup>いことを第<sup>だいいち</sup>一<sup>かんが</sup>に考<sup>ゆた</sup>え、豊<sup>あ</sup>かな愛<sup>けんり</sup>情<sup>たいせつ</sup>を持<sup>も</sup>って、こどもが<sup>すこ</sup>健<sup>そだ</sup>やか<sup>つと</sup>に育<sup>つと</sup>つように努<sup>つと</sup>め<sup>つと</sup>ます。

2 保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>者<sup>しゃ</sup>は、必要<sup>ひつよう</sup>に応<sup>おう</sup>じて市<sup>し</sup>、市<sup>しみんとう</sup>民<sup>し</sup>等<sup>し</sup>と力<sup>ちから</sup>を合<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>せて、こどもの<sup>けんり</sup>権<sup>けんり</sup>利<sup>けんり</sup>を大切<sup>たいせつ</sup>に守<sup>まも</sup>るように

つと  
努めます。

しみんとう やくわり  
(市民等の役割)

だい じょう しみんとう ちいきぜんたい すこ そだ きさ ちから あ  
第10条 市民等は、地域全体でこどもの健やかな育ちを支え、力を合わせてこどもの  
けんり たいせつ まも つと  
権利が大切に守られるように努めます。

2 しみんとう すこ そだ かんきょう つと  
市民等は、こどもが健やかに育つことができる環境づくりに努めます。

3 しみんとう ちいき みまも あんしん す いばしよ  
市民等は、地域でこどもを見守り、こどもが安心して過ごすことができる居場所づくり  
つと  
に努めます。

4 ひごろ そだ かか ひと だんたい かんが あそ まな かつどう  
日頃からこどもの育ちに関わる人や団体は、こどもが考え、遊び、学び、活動するこ  
とができるようにしえん まな きかい まも つと  
とができるように支援し、こどもの学ぶ機会が守られるように努めます。

けんり まも たいせい  
(こどもの権利を守るための体制)

だい じょう し ふあん なや かいしょう そうだん おう あんしん  
第11条 市は、こどもが不安や悩みを解消できるように相談に応じ、こどもが安心して  
す かんきょう つと  
過ごすことができる環境づくりに努めます。

2 し けんり まも じょうたい しょう ほごしゃ しみんとう  
市は、こどもの権利が守られていない状態が生じたときは、こども、保護者、市民等  
ちから あ すこ はや けんり まも じょうたい かいふく とりくみ  
と力を合わせて、少しでも早くこどもの権利が守られた状態へ回復できるように取組を  
おこな  
行います。

い にん  
(委任)

だい じょう じょうれい さだ ひつよう しちょう べつ さだ  
第12条 この条例に定めるもののほか必要なことは、市長が別に定めます。

ふ そく  
附 則

じょうれい れいわ ねん がつ にち こうふ れいわ ねん がつ にち しこう  
この条例は、令和8年4月1日に公布し、令和8年7月1日から施行します。